

1. 第38回大会報告

森田 孝夫 (奈良県立医科大学医学教育開発センター)

第38回日本医学教育学会大会は、奈良県立医科大学長吉田 修大会長の主宰により、「いま、医学教育に求められているもの」を基調テーマとして平成18年7月29日、30日の両日、奈良県新公会堂で開催された。2日間の大会参加登録者は828名(内 学生84名)、大会参加者総数は964名であった。

基調テーマに基づいて、①Population-based Medicineの教育一人から集団へ、②新臨床研修制度によって生じた諸問題とその対応、③医学教育の基盤となる考え方と実践の3つのサブテーマが決定し、さらに新たな試みとして、①教育学の専門家の参加を仰ぐ、②学生の積極的な参加を促す、③モデル授業を行う、④各大学の特色あるカリキュラムを紹介するなどが企画に盛り込まれた。

大会長講演：「いま、医学教育に望まれているもの」、名誉会長講演：「日本の医学教育に望むこと」、教育講演：「成人教育学の基本原則と提起－職業人教育への示唆」(京都大学 渡邊洋子氏)、特別講演1：「Integrating Population Health and Clinical Care in Medical Education」(John's Hopkins 大学 Lawrence 教授)、特別講演2：「Innovation in Medical Education in Korea」(韓国医学教育学会長 Meng 氏)、シンポジウム(4企画)、ワークショップ(1企画)、ランチョンセミナー(2企画)、モデル授業(3授業)、学生のセッション(8グループ)、特色ある大学教育への挑戦(31プログラム)、一般演題246題(口演123題、展示123題)。

以上の企画が大会で実施された。

2. 第39回大会報告

堀内 三郎 (岩手医科大学医学部生化学)

第39回大会は、岩手医科大学学長佐藤俊一大会長の主宰により、「地域医療と医学・医療教育－Think globally, Act locally－」を基調テーマとして、2007年7月27、28日の両日、ホテルメトロポリタン盛岡で開催された。この大会への参加登録者は770名であった。

大会プログラムは、会員からの企画アイデア募集を基盤にして、卒前教育、初期臨床研修、専門研修、生涯教育にわたる切れ目ない医学教育の在り方を取り上げた。「地域医療と医学・医療教育」

の観点からは、日野原名誉会長の特別講演「地域医療へのボランティア参加の戦略と行動」とオーストラリア Flinders 大学の Dr. Prideaux による“Community-Based Medical Education : A New Model for Clinical Education”が組まれた。

関連のシンポジウムとしては、地域医療と卒前教育・臨床研修・医師の生涯教育が行われた。この大会では、齋藤会長のアドバイスで「地域医療教育に関する盛岡アピール」(医学教育, 38巻5号358頁)を発信することができた。医学教育の